

～笑顔の交流～ 学校と地域が協働で子どもたちを育む

近江八幡市	活動名：寺子屋 八幡	八幡小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：八幡コミュニティセンター 年間開催日数：24日(開催ペース：月1～4日) 平均参加人数：25人 ・活動内容：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他() ・教室の持ち方：■平日放課後実施 ■土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他() ・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要

- ・学習支援…3年生の児童(希望者)が月1～2回金曜日の6時間目にコミュニティセンターで、地域の方や教員と宿題に取り組む。
- ・「沖島まるごと体験塾」、「カラム教室」、「書道教室(八幡書道会さんの指導による)」、「さつまいも収穫体験」、「百人一首教室」、「子どもクッキング教室」など実施。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・支援が必要な児童に対して行事を通じて自然な形でサポートできるように工夫することで、徐々に心を開いてくれてきたように感じる。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・チラシの配布や、申込書の提出、寺子屋への安全な登下校についての指導等、学校や放課後児童クラブにはたくさんのご協力をいただいている。

■ 他事業との関わり

- ・寺子屋だけでなく、まち協の各部会も子ども育成のための活動をしている。納涼まつり、文化のつどい(八幡まち協文化部会)、子ども食堂(福祉部会)、防災教室(安全安心部会)、平和学習会(人権部会)などの案内も寺子屋の際に行っている。

■ 事業の成果と課題

- ・スタッフの皆さんの熱意ある活動で、年々子どものスタッフに対する認知度も上がってきている。子どもたちが「寺子屋の人や!」と駆け寄ってくる様子もよく見られる。今後も引き続き、事業を通じて子どもたちをサポートしていきたい。



【百人一首教室の様子】

報告書記入者(八幡学区まちづくり協議会)

地域で繋がる 寺子屋 島「夏休み学習教室」

近江八幡市	活動名：寺子屋 島 夏休み学習教室	島小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：島コミュニティセンター 年間開催日数：1日 平均参加人数：9人 ・活動内容：■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他() ・教室の持ち方：□平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他() ・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 □地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要

- ・夏休み、同じ地域に住む大学生が、小学生の夏休みの宿題を見ることで、地域でのつながりをつくる。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・地域に住む大学生が小学生の勉強を見る異年齢交流。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・当日も学童クラブは開催されていたため、本事業に参加する児童については、事前に連絡を取り、終了後は学童クラブまで送迎をおこなった。

■ 他事業との関わり

- ・大学生のスクリーニングケアサポーターとその友人に依頼して、学習指導員として協力を依頼した。

■ 事業の成果と課題

- ・成果としては、同じ地域に住む近所の大学生が、その地域の小学生にかかわることで、たいへんアットホームな学習教室となり、地域の繋がりもできた。
- ・課題として、児童数が減少の一途で集団下校が成り立たない地区もある。そのため放課後に取り組む子ども教室など、毎週定期的で開催するのは無理があるため、夏休みなど長期休みにおいて指定した日に開催することしかできなかった。



【夏休み学習教室の様子】

報告書記入者(教頭)

自分の「めあて」をしっかりとって、最後まで学習に取り組む 寺子屋：沖島

近江八幡市	活動名：寺子屋 沖島	沖島小学校 学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：沖島小学校 多目的ホール 年間開催日数：60 日(開催ペース：週2日) 平均参加人数：10人 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：2 人 ・活動内容： ☒ 学習支援 ☐ 体験活動 ☒ 芸術・文化 ☐ スポーツ ☐ その他() ・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他() ・スタッフの属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☐ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO 等関係者 ☐ その他		

■ 活動の概要

・宿題や自主学習・読書に取り組む。水曜(全校)・金曜(低学年)を活動日に設定。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

・学習支援員に質問したり、指導を受けたりしながら、各自の学習に取り組む。各学年、学習した計算や漢字の練習など、復習を中心に組み立てられている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

・担任が学習するプリント等を用意している。児童が各自選んでできるようにプリントを何種類か用意していることもある。また、担任が補助的に指導にあたることがある。

■ 事業の成果と課題

・定期的に開催しているので、基礎基本の学習の積み上げ(計算や漢字)が見られた。

・プリント等が終わったら、隣の図書室から本を借り読書をしているので、読書習慣の育成も図れた。

・授業後下校までの時間を、担任ではなく学習支援員に勉強を見てもらうことにより、リラックスしながら学習に取り組むことができています。



【 学習支援をする様子 】

報告書記入者(教頭)

～新たな発見、新たな学びを～

近江八幡市	活動名：寺子屋 岡山	岡山小学校 学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：岡山小学校 年間開催日数：21 日(開催ペース：週・月3日程度) 平均参加人数：20 人 開始年度：平成 30 年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：4人 ・活動内容： ☒ 学習支援 ☐ 体験活動 ☐ 芸術・文化 ☐ スポーツ ☐ その他() ・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他() ・スタッフの属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☐ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO 等関係者 ☐ その他		

■ 活動の概要

子どもたちの学習意欲の向上や主体的な学びの習慣の確立を図ることを目的とし、学校の教室を使って水曜日の放課後に 30 分～1時間程度実施した。

学習支援員は4名で、いずれも元教員である。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

元教員が創意工夫しながら学習を進めている。宿題等の課題や授業の補習的な内容ではなく、それぞれの専門性を生かして、国語、社会、算数の発展的な学習を行った。算数では数の仕組みや位取りのおもしろさを学べる教材設定や、国語では論語などの漢文や古文などを提示し、子どもたちの探求的な学習意識の向上を図ることができた。

■ 事業の成果と課題

発展的な学習内容や中学校や高等学校で学ぶ内容に取り組んだり、紹介したりすることで子どもたちの学習への興味・関心を高めることができた。

今後引き続き活動していくための学習支援員の募集について考えていく必要がある。



【 学習の一場面 】

報告書記入者(教頭)

安全で安心な放課後の居場所づくり

近江八幡市	活動名：寺子屋 金田	金田小学校 学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：金田コミュニティセンター・金田小学校体育館 年間開催日数：8日(開催ペース：11月より週1日) 平均参加人数：15人 ・活動内容： ☒ 学習支援 ☒ 体験活動 ☒ 芸術・文化 ☒ スポーツ ☐ その他() ・教室の持ち方： ☒ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☐ 長期休業日実施 ☐ その他() ・スタッフの属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☐ 元教職員 ☒ 地域住民 ☒ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☒ その他		

■ 活動の概要

・4年生の児童15名(希望者)が、水曜日の放課後、コミュニティセンターに集い、学習やスポーツ、体験活動に取り組む。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・市スポーツ推進課と連携し、スポーツ推進員の指導の下、ニュースポーツ「キンボール」に取り組んだ。
- ・主に宿題や、子どもたちの主体的な学習を中心にプログラムを組んだ。
- ・常時2名のスタッフにより、きめ細やかに子どもの学習を支援した。
- ・1月の阪神・淡路大震災の時期に合わせて、防災学習を行った。
(スタッフの方が、東北で東日本の震災を経験されたこともお話いただきながら。)

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・推進員と教頭が内容について相談、協議し連携を図った。
- ・スポーツの際はスポーツ推進員とも連携した。

■ 事業の成果と課題

- ・事後のアンケートでは児童も保護者も満足いただき、楽しく充実した活動を振り返っていた。
- ・家庭状況から、習い事や学童に通うことができない児童が、寺子屋をとて楽しみに参加することができた。
- ・8回(各2時間)の教室を2人の支援員で運営したが、もう少し予算が増えれば、回数や募集定員を増やすことができる。
- ・今年度より消耗品費がなくなったが、ファイルなどを購入しているので、少しでもつけていただけるとありがたい。



【 キンボール体験 】

報告書記入者(教頭)

夏休みに、共に学ぼう 共に楽しもう！

近江八幡市	活動名：夏休みメディアセンター開放	桐原小学校 学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
主な活動場所：メディアセンター(図書室)・多目的ホール 年間開催日数：4日 平均参加人数：160人 ・活動内容： ☒ 学習支援 ☒ 体験活動 ☐ 芸術・文化 ☐ スポーツ ☐ その他() ・教室の持ち方： ☐ 平日放課後実施 ☐ 土曜日実施 ☒ 長期休業日実施 ☐ その他() ・スタッフの属性： ☐ 企業関係者 ☐ 行政職員 ☒ 元教職員 ☒ 地域住民 ☐ 大学生 ☐ NPO等関係者 ☐ その他		

■ 活動の概要

・夏休み中の子どもの居場所づくりとして、メディアセンター(学校図書館)を開放し、読書、夏休みの宿題、自主学習等を行う時間とした。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・開催日の工夫…開催日を決めるにあたり、地域の子ども食堂が行われる日や学校司書の勤務日に合わせ、多くの子どもたちが参加できるようにした。普段の昼休みに来ていただいている「木工パズル」ボランティアの方に協力いただき、同じ時間に「木工パズルコーナー」も設けた。図書利用や木工パズル体験は、親子での参加も可能とした。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・夏休み中に行う各学年の勉強会と同じ日に開催し、勉強会後にメディアセンターや子ども食堂で過ごせるようにした。学童へ通う子ども、希望者は学童から参加した。

■ 他事業との関わり

- ・きりっ子食堂(子ども食堂)との同日開催

■ 事業の成果と課題

- ・昨年度からは、学校が行っている「メディアセンター開放日」に合わせて、地域と学校の連携で「子どもの夏休み中の居場所づくり」を開催している。2年目の今年は、参加者数が非常に多かった。メディアセンターの開放・木工パズルコーナー・勉強会・子ども食堂を同日開催にすることも、多くの子どもたちが参加理由と考えられる。今後は、さらに地域や保護者の協力を得て、地域と学校の連携および働き方改革にもつながる活動としていきたい。



【 当日の様子 】

報告書記入者(教頭)

地域の方と地域の中で すてきな「ふれ合い・学び合い」

近江八幡市	活動名：五月放課後子ども教室	桐原東小学校 学校運営協議会：■有 □ 無
主な活動場所：五月自治会館 年間開催日数：62日(開催ペース：週・1回 夏休み10日) 平均参加人数：10人 ・活動内容：■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 ■スポーツ ■その他(地域住民との交流・ゲーム) ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他() ・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO 等関係者 ■その他(やまのこサポーター、特別支援教育支援員、元塾講師)		開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員数：10人(兼務3人) 平均スタッフ数：2人

■ 活動の概要

- ・放課後安心して活動することができる居場所づくり。子どもの自主性を重視した活動。
- ・宿題、自主学習のサポート。ゲーム等の遊びのなかでの仲間づくり。
- ・地域住民や高齢者等との交流。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・子どもの自主性を尊重して活動を行う。
(安心・安全に活動できる最低限のルールを説明し、見守りながら一緒に取り組む)
- ・子どもたちの意見を取り入れて準備(備品等購入)する。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・長期休業中は、教職員と一緒に取組を進めている。

■ 事業の成果と課題

- ・子どもたちの自主性が高まり、自分たちで考える場面が増えた。
また、相手のことも考えるようになってきた。
- ・地域の大人との関わりの中で、マナーが向上した。
- ・年代が近いこともあり、大学生の支援者との距離が近く、いろいろなことを相談している。
- ・子ども同士の人間関係に課題がみられることがある。



【 活動に取り組む様子 】

報告書記入者(教頭)

待ち時間に取り組もう！しっかり学習！楽しく体験！寺子屋馬淵！

近江八幡市	活動名：寺子屋馬淵	馬淵小学校 学校運営協議会：■有 □ 無
主な活動場所：馬淵小学校図書室 年間開催日数：5日 平均参加人数：4人 ・活動内容：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他() ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他() ・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO 等関係者 □その他		開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：2人

■ 活動の概要

- ・学習支援 ・折り紙やあやとり等の昔遊び

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・放課後子ども教室への参加で通常下校の人数が少なくなることを防ぐため、学校で児童の預かりが必要な PTA 行事のときと、バスで下校する子どもたちを対象にして、バスの待ち時間を活用して行った。

■ 他事業との関わり

- ・家庭教育支援基盤構築事業

■ 事業の成果と課題

○成果

- ・児童と地域の方が交流する場を持てた。

○課題

- ・児童が減っていく中、放課後に児童を残して活動させることは難しい。
(学童に行く児童も多く、地域に下校する児童の数がごく少なくなる。)
- ・来年度はバスで下校する児童が2名となり、事業実施の継続がさらに難しくなる。



【 学習支援の様子 】

報告書記入者(教頭)

わくわくすること、はじめてみよう

近江八幡市	活動名：北里わくわく広場	北里小学校 学校運営協議会：■有 □ 無
主な活動場所：北里小学校各教室、多目的教室、グラウンド 開始年度：令和5年度 年間開催日数：10日 地域学校協働活動推進員数：1人(兼務1人) 平均参加人数：10人 平均スタッフ数：5人 ・活動内容：■学習支援 ■体験活動 □芸術・文化 ■スポーツ □その他() ・教室の持ち方：□平日放課後実施 ■土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他() ・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 ■その他		

■ 活動の概要

- ・夏休みステップアップ教室(4～6年生) ・漢字検定(年1回)
- ・陸上教室(年2回) ・ニュースポーツ(モルック)

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・北里学区スポーツ振興課が力を入れているモルックと PTA 保健体育部の企画をつなぎ合わせてイベントを行った。夏休みに参加希望を取って行ったが、60名以上の児童が参加するイベントとなった。近江八幡市と北里学区のスポーツ振興課から講師として、モルックのルール説明等を行っていただいた。この後、10月に北里学区民スポーツ大会でモルックが行われ、夏のイベントが良い練習の場となった。
- ・陸上教室には、スポーツ少年団の練習前や練習後にそのまま参加する姿があった。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・推進委員と教頭が内容について相談、協議して連携を図った。
- ・教員が補助指導にあたることもあった。

■ 他事業との関わり

- ・北里学区まちづくり協議会 ・漢字検定協会

■ 事業の成果と課題

- ・まだまだ学校(教頭)が企画補助や運営方法の調整等を行うことが多い。
- ・サポーター等を増やしなが、地域に定着する取り組みにしていけるようにしていく。



【 モルック体験 】

報告書記入者(教頭)

スエばあちゃん食堂と連携した子どもの居場所づくり

近江八幡市	活動名：寺子屋 むさ	武佐小学校 学校運営協議会：■有 □ 無
主な活動場所：西木戸会館 開始年度：令和4年度 年間開催日数：約120日(開催ペース：週3回・月9～11日) 地域学校協働活動推進員数：1人 平均参加人数：月・水・金：4～5人 土：約20人 平均スタッフ数：月・水・金：5人 土：10人 ・活動内容：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ ■その他(季節の料理を味わう) ・教室の持ち方：■平日放課後実施 ■土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他() ・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 ■大学生 ■NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要

- 月・水・金曜日の午後に西木戸会館を開放している。宿題をした後は遊んだり、くつろいだりできる居場所づくりにつながっている。
- 月に1回程度、土曜日に「スエばあちゃん食堂」を開催し、体験活動をしたり、季節の行事を楽しんだり、旬の食材を使った料理を味わったりしている。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- スエばあちゃん食堂には、児童だけでなく、児童の保護者や地域の高齢者なども参加することから地域住民の交流の場となっている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- 平日の活動には本校の児童生徒支援活動教員が参加している。
- 土曜日の活動には教職員の有志が参加している。

■ 他事業との関わり

- スエばあちゃん食堂の主催者が本校の家庭教育支援員であるため、家庭教育支援チームとの連携が図れている。

■ 事業の成果と課題

- 地域で孤立しがちな家庭や保護者が参加することにより、地域住民や教職員と話すきっかけづくりになっている。
- 参加する児童と保護者が固定化されてきているため、開催方法や周知の方法を工夫し、より多くの児童および保護者にとって参加しやすいものにしていく必要がある。



【 放課後学習 】

報告書記入者(教頭)

友だちと楽しく活動し、つながりの輪を広げよう

近江八幡市	活動名：ジュニアスポーツ教室	安土小学校 学校運営協議会：■有 □ 無
主な活動場所：安土コミュニティセンター 年間開催日数：6日(開催ペース：週・月1日) 平均参加人数：20人 ・活動内容：□学習支援 ■体験活動 □芸術・文化 ■スポーツ □その他() ・教室の持ち方：□平日放課後実施 ■土曜日実施 □長期休業日実施 □その他() ・スタッフの属性：□企業関係者 ■行政職員 ■元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要

・毎月第1土曜日に、異年齢の友だちと楽しく体を動かして遊び、つながりをつくる。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

7月 8月 ファミリーバトミントン
 9月 10月 ソフトバレーボール
 11月 安土山ハイキング(雨のため中止)
 12月 ボッチャ

(工夫)

・低学年は保護者同伴で、安心して参加できるようにする。
 ・運動が苦手な児童もやってみようかなと思える運動を設定し、多くの児童が参加しやすくなるようにした。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

・体験活動のチラシを学校で配布したり、参加を呼びかけたりした。

■ 事業の成果と課題

・学校生活では交わりが少ない異年齢のつながりや友だちができた。
 ・今年度は地域の大学生が支援員として協力していただけた。来年度新たな支援員確保に力を入れていきたい。



【 ソフトバレーボール 】

報告書記入者(教頭)

寺子屋老蘇で学習方法を身に付け基礎学力アップ！地域とともに

近江八幡市	活動名：寺子屋老蘇「こども学習教室」	老蘇小学校 学校運営協議会：■有 □ 無
主な活動場所：老蘇小学校図書室 年間開催日数：10日(開催ペース：週1日 学年別) 平均参加人数：7人 ・活動内容：■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他() ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他() ・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 □地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要

・基礎学力の定着を目指した学習活動をする。
 ・地域の方や学生による支援を受け、自主学習や家庭学習の方法を習得する。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

・計算力・漢字力の向上を目指し、毎回「百ます計算」や漢字の書き取りを行った。
 ・宿題をはじめ、各々が目標を決めプリント学習等を行った。
 ・1時間で集中力を重視して行った。
 ・対象の3・4年生が6時間授業の火曜日に設定し、図書室で行った。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

・子どもたちの様子を担任が見に来たり、指導員と管理職で放課後児童クラブまで送ったり、連携を行った。

■ 他事業との関わり

・老蘇まちづくり協議会でも、夏季休業中に「寺子屋」を全学年対象に実施している。

■ 事業の成果と課題

- 成果
- ・学年別に少人数で学習する機会となり、よりよい支援を受けられた。
 - ・学習に集中して取り組むことができ、わからないところを個々に気軽に質問できた。
- 課題
- ・下校時刻が遅くなることから保護者の迎えを必須条件としたため、保護者の都合で参加できない児童もいた。
 - ・学習のスピードがさまざまで一人の児童に指導者がかかりきりになってしまった。プリントの種類を増やし、児童が自主的に課題を選んだり、自己採点できたりするシステムの構築が望まれる。



【 学習に取り組む様子 】

報告書記入者(教頭)